プンミー医師近況報告

ラオ・フレンズ小児病院　アダプト・ア・ドクタープロジェクト

プンミー医師は２年前に小児科の専門医研修コースを修了しラオ・フレンズ小児病院（LFHC）の臨床へ戻ってきました。何事にもとても熱心な彼は、現在、ラオス北部の公衆衛生向上を目指す新しい教育プロジェクトのリーダーとなってチームを率いてくれています。 院内の診療に加えてこの責任ある業務を担ってくれており、病院にいないときは北部の各郡を飛び回っています。各郡病院では、エビデンスに基づいた教育を郡病院スタッフへ提供しています。地方では適切な医療情報のアップデートがされていないことが多く、中央と地方では提供する医療に格差が出ているのが現状です。そのギャップを無くし、適材適所で医療が提供できるようにすることと、適切な紹介システムを構築することへつながることを目指します。

具体的には、肺炎、気管支炎、消化器感染症など、一般的ではあるものの命にかかわる病気の診断と治療を改善する方法を教えることです。また、救命器具に対する病院のニーズを評価し、必要不可欠な物資を確保するために政府につなげることです。

この郡病院スタッフ教育のプロジェクトは、3年間で12の郡病院に関わるという大きな責務がありますが、プンミー医師はチャレンジ精神旺盛で、やる気満々です！
LFHC院内では、緩和ケアに関わる重要な職務も続けています。
すべての患者が思いやりのある質の高いケアを受けられるように彼を補佐する新しい医師を育てています。

最近彼が関わった症例で、重度の肺炎と呼吸不全に陥った3歳の女の子がいました。その子は呼吸器が装着され集中治療室に入院していました。
プンミー医師が治療方針を監督するという重要な役割を担っていました。そして、人工呼吸器をつけたまま72時間が経過したころから回復の兆しが見られ、最終的には無事退院し家族と一緒に帰ることできました。彼女の家族はプンミー医師へ大変感謝していたということです。
プンミー医師をサポートしてくださったことが、一人の医師を支援する以上の広がりを見せています。それは、ラオス北部のヘルスケアの変革にさえインパクトを与えることになりました。今年、プンミー医師はさらに4つの郡を回り任務を継続し、病院から遠く離れた地域の子どもたちへ最善の治療が提供できるよう頑張りたいと言っています。
引き続き見守っていただければ幸いです。ありがとうございます。

編集後記：プンミーの当院で働くことの情熱にはいつも驚かされます。そして、そんな彼へのご支援をいただけたことに、大変感謝いたします。
これからも彼の成長をお伝えしてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ラオ・フレンズ小児病院 赤尾和美